



新年のごあいさつ

～共生社会への取り組みは始まったばかり～



社会福祉法人足羽福祉会
理事長 高村 昌裕

新年明けましておめでとうございます。

昨年は福井しあわせ元気国体と福井しあわせ元気大会（以下「国体・障スポ」とします）の大成功が県内の最も大きなトピックだったと思います。私たち足羽福祉会も選手や役員の派遣や応援、花壇つくりや応援グッズ作成、就労支援事業の出店販売などさまざまな形で国体・障スポにかかわらせていただきました。この様子は今号の特集でご紹介しています。

私自身、大会期間は県内の各会場に職員や利用者の方の応援に出向きましたが、特に障スポの会場で印象に残ったことがあります。

それは障がいのあるアスリートへの県民の温かい応援です。国体は国内の一流選手が集まるもあり、どの会場も熱気であふれていますが、障スポの各会場でも多くの観客が声をあげて障がいのある方たちを応援してくれる様子にとても感動しました。高校生の現役部員たちの熱い応援は、会場を盛り上げ、障がいのあるアスリートたちにも確実に届いていました。

ふだんの練習ではあまり他人から見られることもない利用者の方は、最初は「大勢の人に見られるのは緊張する」「失敗するのが恥ずかしい」と言っていましたが、大歓声のもと、試合中はとても集中して、素晴らしいプレーを連発していました。また別の競技では、私たちがふだんの生活支

援の中では見られなかった飛び切りの笑顔やポーズを観客に見せる様子も見られました。

以前「観客の応援が選手のパフォーマンスを20%以上向上させる」という論文を読んだことがあるのですが、まさに応援の力が選手たちの成長を後押ししてくれたのです。

障がいのある方たちの暮らしは、これまでどちらかというと家族や福祉のみが支え、地域や社会全般からはあまり関心を持たれないという時代でした。しかし国体・障スポを通して、私は社会全体の理解、サポート、後押しこそ障がいのある方たちの生きいきとした暮らしを大きく前進させることを確信したのです。

昨年は「障害のある人もない人も幸せに暮らせる福井県共生社会条例」が施行された年でもあります。国体・障スポの融合で、共生社会に向けたとても良い一歩を踏み出せたと言えるでしょう。しかしここで足を止めてはいけません。まだまだ障がいのある人もない人も共に幸せに暮らせる社会にするためにはたくさんの課題があるからです。

私たちは今年も目の前の利用される方一人ひとりやその家族、地域社会が安心して毎日を過ごせるよう、役職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。何卒皆様のご支援、ご協力のほどお願いいたします。